

関係団体の意見と対応

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めてほしい。</p>	<p>① 出・洪水や排砂・通砂時の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、排砂時の流砂量観測や黒部川河口より海へと流出した土砂量及び土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂実施時のヘリコプターによる空撮、海域での採水調査等を実施しているところである。</p> <p>今後とも、土砂動態の把握精度の向上に努めて参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 平成23年度連携排砂及び通砂実施後の宇奈月ダム下流における河川水質調査において、指標の一部に既往の観測値を超えるものが見られたことを踏まえ、海面漁業関係団体としては、今後の排砂及び通砂時に、現在堆積している土砂が漁場環境や漁業へ影響を与えるのではないかと危惧している。</p> <p>上記を踏まえ、宇奈月ダムにおける堆砂状況を把握するための調査や漁場環境や漁業への影響がより少ない排砂及び通砂の方法を検討してほしい。</p>	<p>② 宇奈月ダム湛水池において、堆積している土砂の状況を把握するため、平成24年秋より、ボーリング調査を実施したところである。</p> <p>第39回黒部川ダム排砂評価委員会において、宇奈月ダムの一部のボーリング調査結果では、「(前略)分析の結果現段階では、COD等において大きな値を観測した箇所は少ない。また、それらはダム湖底深部に位置することから排砂により下流河川へ排出する可能性はほとんどないと考えられる」との評価を頂いている。</p> <p>また、現在、前回調査した地点以外のサンプリング試料の底質分析を実施中であり、その結果については第41回黒部川ダム排砂評価委員会にて報告する予定としている。</p> <p>今後も、排砂及び通砂の実施方法等を検討・改善することにより、できるだけ自然に近い形で排砂及び通砂が実施できるよう、可能な限り努力して参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>③ 船体の損傷など、流木による漁業への影響が懸念されるため、排砂実施機関においては、今後も流木処理等の対応をお願いしたい。</p>	<p>③ 従来から、黒部ダム、出し平ダム及び宇奈月ダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間前・後及び排砂期間中に可能な限り回収している。</p> <p>また、排砂等実施後、河道内に堆積した流木については、出・洪水時に下流に流出することが懸念されるため、積極的に回収している。</p> <p>今後とも、ダム湖内に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内の流木の回収に努めて参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	④ 猫又付近の土砂堆積対策について、土砂搬出の具体的方策を検討してほしい。	④ 出し平ダム貯水池上流の猫又地点は、平成7年7月の大出水以降、出水による土砂堆積が顕著であり、同地点に在る黒部川第二発電所放水口付近において、発電機能維持を図るため、機械掘削を行っている。 これまで濁りの発生が予想される箇所については、仮締め切り施工中に土嚢積みを行い、濁りの発生を極力抑制しているところである。 今後も、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討して参りたい。

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	⑤ 排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も、調査地点、方法を含め検討してほしい。	⑤ これまで、専門家からご指導を頂き、また海面漁業関係団体ともご相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス及び動・植物プランクトンにかかる調査を行ってきたところである。 このうちマクロベントスについては、第39回黒部川ダム排砂評価委員会において、既往環境調査に対する分析(マクロベントス解析)について報告し、「既往環境調査結果に対する分析により、黒部川河口周辺海域に関する状況がこれまでよりも把握できたと考えられる。」との評価を頂いている。 これを踏まえ、専門家の助言・指導を頂きながら、引き続き魚の生息環境の変化の把握に努めて参りたい。

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>⑥ 近年は、局地的な集中豪雨などによる大規模出水時に排砂等が実施されることが多く、河川上流部からの大量の流出土砂が排出土砂等に加わることで、魚類や藻場等への影響の長期化や、操業及び漁具等への物理的な被害が発生することを強く懸念している。</p> <p>気象条件や河川の状態及びダムの堆積形状など、排砂等を取り巻く環境が従前と大きく変化してきていることに十分配慮し、排砂方法等について抜本的な改善策を検討されたい。</p>	<p>⑥ 排砂・通砂方法については、「黒部川ダム排砂評価委員会」において、検討・審議した結果を踏まえ、一定規模以上の出・洪水発生時の末期に実施してきたところである。</p> <p>これまでも、なるべく上流から流入する土砂をこまめに排出すべく、平成22年度には、通砂の実施基準を見直すための「試験通砂」、短時間集中豪雨に対応すべく、「短時間集中豪雨対策」、平成23年度には、短時間集中豪雨対策を8月に限定せずに実施する「細砂通過放流」等を検討し対応を行ってきたところである。</p> <p>ご指摘の意見を踏まえ、今後ともよりよい排砂方法の検討を引き続き実施して参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 第40回黒部川ダム排砂評価委員会での評価において、「アユの肥満度について、出・洪水時において一時的に影響を受けるものの、その後は回復していることが確認できた。また、常願寺川において同様の結果となった。」とあるが、組合としては魚類の成育・生息環境への影響について危惧しているところである。</p> <p>そのため、今後も、魚類の生息環境に影響を与えないような排砂及び通砂のやり方を検討されたい。</p>	<p>① 実施機関では、魚類の生息環境への影響について、専門家のご指導ならびに内水面漁協のご協力を頂き、その調査・分析に努めてきたところである。</p> <p>ご指摘の点については、第40回黒部川ダム排砂評価委員会での評価も踏まえ、今後も排砂及び通砂の実施方法等を検討・改善することにより、できるだけ自然に近い形で排砂及び通砂が実施出来るよう可能な限り努力して参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>② 現在実施されている自然流下後及び排砂後の措置後における放流量の絞り込みは、下流河川における水位低下が顕著で、魚類の生息環境に影響を与えると考えられるため、ダムからの放流量や放流方法について引き続き検討を図りたい。</p>	<p>② 平成17年度から排砂及び通砂後に河床に堆積する砂泥分をフラッシュする目的で実施している排砂・通砂後の措置の効果については、第32回黒部川ダム排砂評価委員会において「連携排砂および連携通砂により河道内に堆積した泥分の割合が、排砂後および通砂後の措置の試行により、減少していることを確認できた。」との評価を頂いている。</p> <p>実施機関としては、排砂・通砂後の措置実施時の河川流況にもよるが、ダムからの放流量や放流方法について今後も検討を進めて参りたい。また、これまで同様、水生生物の生息環境への影響に対する調査や分析にも努めて参りたい。</p>

【平成25年度連携排砂・通砂・細砂通過放流の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>① 出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性和処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>② 天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂・通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し、長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>③ 農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>① 実施機関では、これまでも関係市町のご協力を頂きながら、連携排砂・通砂にかかるお問い合わせや来訪者からのご意見等への対応をはじめ、勉強・説明会等の要請にお応えする等、様々な形で連携排砂・通砂の必要性等についてご理解が得られるよう、努めているところである。 今後、連携排砂・通砂を実施するにあたっては、関係市町等と連携を密にし、また、ご相談等も行いながら、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、努めて参りたい。</p> <p>②及び③ 排砂は、環境への影響を小さくするため、できるだけ自然の出・洪水時の土砂流に近い形で、毎年、確実に行っていくことが必要であると考えている。 通砂は、排砂後の一定規模以上の出洪水発生時において、上流から流入する土砂を貯水池内に貯めないよう、通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の土砂量を減らし、環境に与える影響を極力低減させる観点から、必要なものと考えている。 今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討を行って参りたい。</p>